

改善点について検討を行った。その結果、歯科技工室は①診療エリアと技工エリア間を往来する搬送物の消毒の徹底化②歯科医療チームの一員として自覚を持つ③歯科技工の作業環境は常に整備する④歯科技工の感染対策は確実・安全・簡便・安価が重要⑤全歯科技工士のB型肝炎ワクチン接種の義務化、以上の5点にまとめられた。今後は早急に感染予防対策の概念と対処法を歯科技工基礎教育に導入することが必須であると考え、忘れてならないことは、歯科技工士が歯科医療従事者であり自ら身を守る姿勢を持つことである。

第60回（通算第143回）：平成24年10月25日（木）

（座長：丸山 満）

## 歯科衛生士学科1・2年生における『早期臨床体験実習』の取組み

天池千嘉子（歯科衛生士学科）

本学歯科衛生士学科では歯科医療現場、歯科衛生士の役割を早期に理解し、その後の学習意欲を高めることを目的に入学して間もない時期から、早期臨床体験実習を行ってきた。早期臨床体験実習は1985年に医学教育において早期に医学生に学習への動機づけを目標に導入されており、これを受け、看護師や歯科衛生士など医療職の養成機関においても取り組みが始まった。本学では、一般目標、到達目標を掲げ、1年前期・後期、2年前期の3回に分けて行い、学生に自己評価をさせた。その結果、身だしなみや、患者への気配りの自己評価は高く、自分で考えたり、行動する自己評価は低かった。また感想では「歯科衛生士の仕事に興味をもった」、「教えてもらうことに甘えていたが、自分から考えるようにしなければ行けないと思った。」「他学年との実習はお互いの刺激となってよかった。」と歯科衛生士を目指す学生の自覚をもち始めたように思われる。今後早期臨床体験実習の有効性を検証しながら取り組んで行きたい。

## 東伸洋行（株）新商品の紹介 ～ノンクラスプ義歯への利用について～

山本土郎（東伸洋行株式会社）

H20年から明倫短期大学・沖歯科工業（株）・東伸洋行（株）の3者による連携で開始した『レイニ

ング樹脂によるノンクラスプ義歯に関する共同研究』は昨年度までに20症例の研究対象で義歯製作を完了し共同研究を終了した。材料の開発、改善をテーマとした東伸洋行（株）では、樹脂材料の改良版となるレイニング樹脂NをH22年9月に発売開始し、義歯の耐久性を飛躍的に向上させることができた。また本年度は関連商品として1. 高膨張タイプの石膏「レイニングストーンHE」：レイニング樹脂Nの収縮率に合わせ0.6%の膨張率とすることで義歯の適合性を向上する。2. 石膏型鏡面仕上剤「ベースコートDC」：石膏面に塗布し鏡面に仕上ることにより、義歯の研磨作業を低減し、また石膏型との分離機能を持つ。3. 歯科技工用成形器「セレクトミニ」：小型低価格の新型射出成形器で全ての熱可塑性樹脂に対応する。以上3点を新商品として販売開始したので、ノンクラスプ義歯への利用法を含めて製品を紹介した。

## ノンメタルクラスプ義歯の短期的評価 ー歯科医師の立場からー

野村章子（歯科技工士学科）

本学附属歯科診療所において平成18年から平成24年までレイニング樹脂およびレイニング樹脂N（東伸洋行）を使用して製作したノンメタルクラスプ義歯38ケースの概要について報告した。欠損分類では、前歯中間4、臼歯中間7、片側遊離端20、両側遊離端3、複合4ケースであった。部分床義歯の設計原則である安定性、清掃性、耐久性を確実にするために歯科技工士との設計検討を重視した結果、多くのケースにおいて問題点は認められず、再製作を要した2ケースについては多数歯の複合欠損症例における射出成形時の寸法変形および患者の装用ミスによるものであった。

義歯設計に創意工夫をこらした種々の症例の中から、高度の咬耗と緊密咬合を呈する下顎大臼歯部の片側遊離端欠損、隣在歯との審美的調和と発音機能を重視した上顎前歯部欠損、支台歯2歯と欠損歯4歯のアンバランスが危惧された上顎臼歯部の片側遊離端欠損、長年装用した上顎コースス・テレスコープ義歯と下顎金属床義歯から転換した臼歯部欠損の計4症例を選び、治療ポイントを詳しく解説した。さらに、義歯内面調整および患者による義歯着脱の注意点、米菓咀嚼の食片無介入についても述べた。

短期間の治療実績ではあるが、設計原則と口腔内状態に基づく適応症の判断と、患者への十分な説明があれば、義歯治療の選択肢になり得ると考える。

## ノンメタルクラスプ義歯の短期的評価 ー歯科衛生士の立場からー

工藤百恵（附属歯科診療所DH）

鴨井公子（附属歯科診療所DH）

ノンメタルクラスプ義歯を装着した患者のうち、担当した3名の義歯装着後1～2年間の歯周組織の経過について報告した。

【症例1】70歳男性，平成16年2月初診，平成22年4月に上顎右側大臼歯部に義歯を装着したところ，快適性や咀嚼機能は良好であった。歯周治療に対するモチベーションが高く，月2回の歯周メンテナンスを継続し，歯周組織の状態は1年間おおむね維持できていた。

【症例2】65歳女性，平成17年7月初診，平成23年6月に下顎両側臼歯部に義歯を装着し，症例1と同様に経過は良好であった。全体的に重度の歯周病であったが，月1回の歯周メンテナンスで，軽度の支台歯には悪化はなかった。

【症例3】75歳男性，平成16年2月初診，平成20年10月に下顎右側大臼歯部，11月に下顎左側大臼歯部に義歯を装着し，同様に経過は良好であった。月1回の歯周メンテナンスで，装着時から2年後の支台歯と歯周組織の状態は良好に維持できていた。

義歯の構造設計上支台歯の辺縁歯肉を広く被覆するが，歯周疾患が認められない患者では口腔内の状況は維持され，歯周疾患があってもノンメタルクラスプ義歯を装着したことによる悪化はなかった。